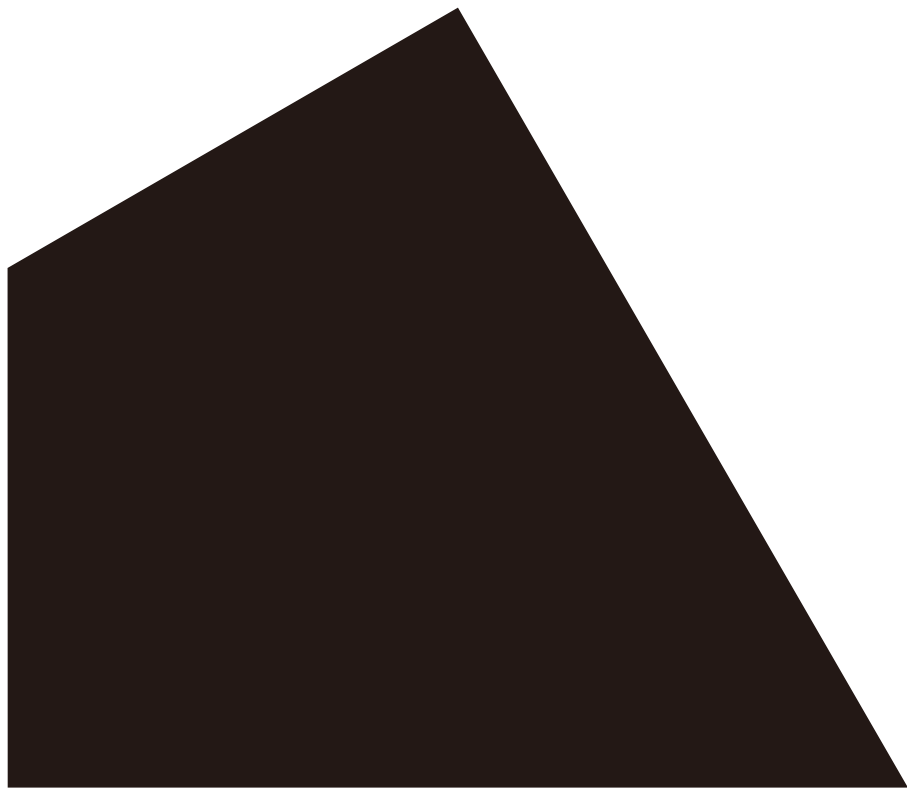


文
化

Culture



一座きょうと オープニングイベント 茶道・華道

本日はようこそお越しくださいませ、ありがとうございます。

京都ゾーンのオープニングを飾るのは京の伝統文化、茶道と華道のおもてなしです。

ゾーンのテーマである、客と亭主が心通わせる「一座建立」の精神をぜひ体感してください。

ICHI-ZA KYOTO Opening Event – Tea Ceremony & Flower Arrangement

Thank you very much for coming today. The opening of the Kyoto zone welcomes visitors with displays of traditional Kyoto culture, tea ceremonies, and ikebana flower arrangements. We invite you to experience firsthand the spirit of ichi-za konryu, or “fostering deep communication and understanding between guests and the host.”

1 藪内家 燕庵

Yabunouchi School of Tea with Tea Room “En’nan”

2 京都いけばな協会

KYOTO IKEBANA ASSOCIATION

藪内家 燕庵

藪内流の歴史

流祖藪内剣仲紹智(1536～1627)は尼崎(現在の兵庫県尼崎市)の出身です。武野紹鷗の弟子で、千利休や古田織部と親交を持ちました。大徳寺の春屋和尚より「剣仲」の道号を授かり、利休から茶室「雲脚」、織部から「燕庵」を賜りました。二代月心軒は西本願寺の茶道師家に請われ、現在の西洞院正面に屋敷を移しました。師家相続が世襲制となり藪内家の基礎を固めました。

三代雲脚亭、四代蕉雪斎、五代不住斎、六代比老斎、七代桂隠斎、八代真々斎と続き、それぞれが書や作陶などの芸術に秀で、流儀の発展に貢献しました。

九代宝林斎は明治維新期の混乱を乗り越えました。十代休々斎、十一代透月斎の時代には、多くの新興経済人が門人に加わるなど近代茶道の華やかな時代となり、各地の寺社ででの献茶式(神仏に茶を捧げる儀式)も創始されました。

十二代猗々斎は戦中・戦後の困難を乗り越え、同門組織「竹風会」や「財団法人藪内燕庵」を設立。十三代青々斎は茶の湯の国際化を推進しました。



流祖 藪内剣仲紹智

藪内家 燕庵

現在の十四代允猶斎は、次の時代に向けた新たな発展を担っています。

このように、藪内家は伝統を守りながらも時代に適応し、茶の湯の発展に寄与してきました。

藪内流の特徴

藪内流の茶道は、遠祖の藪宗把や武野紹鷗から受け継いだ茶法と、利休改正の茶法を「古儀茶道」として継承してきました。それ故、書院の「台子の茶」の作法、と草庵(小間)の「侘びの茶」の両方を大切にしています。

点前の特徴として、帛紗を右腰に付け、大振りな所作で、「武家点前」「男性的」と評されます。また、茶法の基本理念として「正直・清浄・礼和・質朴」を掲げ、茶道を通じて心身を修めることを重視しています。



当代允猶斎による台子点前

藪内家 燕庵

展示品

①麒麟金紫銅香炉写

遠祖藪宗把が足利幕府7代将軍の義政より拝領した香炉です。藪内家には足利将軍家由来の茶道具も数点つたわり、これらは茶ノ湯の家としての500年以上の歴史を物語ります。

②織部焼袂香合写

古田織部が出色の出来の同香合をいち早く義弟剣仲に見せたいと、木箱の完成を待たず急いで着物の袂にいれて運んだ伝承から袂香合と呼ばれます。織部と剣仲の親しい間柄が偲ばれます。

③鉈鞘花入写

元は木こりが鉈を差してぶら下げた籠鞘で、千利休が花入に見立て茶会で度々使用していました。剣仲は利休にこの花生を所望したところ快く譲られました。後日剣仲自身の茶会で織部を客に同花入を使用したところ、織部は見事な花入に魅入られて、剣仲に無断で持ち帰ってしまいました。それを知った剣仲は立腹し抗議したところ、織部は手紙とともに同花入を返却しました。その手紙は現在も藪内家に残っています。ユニークなエピソードも茶道具の魅力です。

京都いけばな協会 KYOTO IKEBANA ASSOCIATION

2025年4月20日(日)～4月26日(土)

京都いけばな協会は、京都で積極的な活動を繰り広げる27の流派で構成されています。
毎年開催している「華道京展(かどうきょうてん)」は本年76回目を数え、京都の春の恒例行事となっています。

6月6日の「いけばなの日」の前後には「京都いけばなプレゼンテーション」を開催し、ご来場の方々に参加いただける企画を展開し「いけばな」の魅力を広くお伝えしています。

中学校では「伝統文化体験事業」として、市内全域と府下一部の各学校に華道家が出向いて「いけばな」の特別授業を行い、年間9000人あまりの子供達に花を生けてもらっています。

その他各地でのさまざまなイベントに積極的に参加し「いけばな」の素晴らしさを発信し、振興に注力しています。

流派名:京都末生流

KYOTOMISHO-RYU

出品者:松本 司

Tsukasa Matsumoto

創流(そうりゅう)143年。四世家元は花と人の出会いを大切にし、受け継がれてきた伝承を現代に生かし「楽しむ花」を信条としています。一人でも多くの人に花と語らう素晴らしさを実感してもらいたい。

2025年4月20日(日)～4月22日(火)

流派名:都未生流 MIYAKOMISHORYU

出品者:大津 智永 Chiei Ootsu

知恩院華頂宮(ちおんいんかちょうのみや)の指南役、藤木月亭光信(ふじきげつていみつのおぶ)により天保6年京都にて起る。

技術だけではなく優しさ、美しさを感じていただける心を持ってもらいたい。

都未生流では、いけばなを通し心を育てる指導をしています。

流派名:喜堂末生流 KIDOUMISHORYU

出品者:杉崎 翠山 Suizan Sugisaki

自然の法則に基づき植物の生い立ちを学び、清心を受け継ぎ伝統ある花形(かけい)から時代に合わせた自由花(じゆうか)を表現し、いけばなを楽しむ流儀であります。教室では暮らしにいけばなをと、体験や見学も行っています。

流派名:一光流 IKKORYU

出品者:梅田 一茜 Issen Umeda

四季折々の草・木・花の美を真剣に見つめ、どのような場所に飾っても調和するよう、たえず研鑽し続けています。また、その花たちをよく知るために一光流一筆画(いっこうりゅういっぴつが)も提案いたしております。

2025年4月20日(日)～4月22日(火)

流派名:御室流

OMURORYU

出品者:野々田 美水

Bisui Nonoda

世界文化遺産仁和寺(にんなじ)を家元とする流派で、古典花(こてんか)の技法と自由な表現が可能な盛花(もりばな)、投入花(なげいればな)を伝え、豊かな感性の涵養(かんよう)と人のあるべき道を求める心を伝えています。

流派名:小松流

KOMATSURYU

出品者:中村 凜翠

Rinsui Nakamura

京都の衣笠山(きぬがさやま)の麓、小松原にて、その地名から「小松流」として1933年に創流(そうりゅう)しました。季節の花を色彩豊かに取り合わせ、心躍る毎日を提案し日々活動しております。

流派名:専慶流

SENKEIRYU

出品者:西阪 保則

Yasunori Nishisaka

1669年京都で流祖富春軒仙溪(りゅうそふしゅんけんせんけい)によって創始される。伝承された端正なかたちに新しい作風と感性を求め、豊かな気品をたくわえてきました。四季の植物を通じて、絶えず心のやすらぎと個性的なひろがり専慶流は求めています。

2025年4月23日(水)～4月26日(土)

流派名:細川未生流 HOSOKAWAMISHORYU

出品者:岡本 陽甫 Yoho Okamoto

細川未生流は自然の花材(かざい)、自然の姿、花々の命を大切にする形が受け継がれていると同時に茶道細川御流(さどうほそかわおんりゅう)の家元でもあり茶花(ちゃばな)も得意としています。

流派名:喜堂未生流 KIDOUMISHORYU

出品者:杉崎 翠山 Suizan Sugisaki

自然の法則に基づき植物の生い立ちを学び、清心を受け継ぎ伝統ある花形(かけい)から時代に合わせた自由花(じゅうか)を表現し、いけばなを楽しむ流儀であります。教室では暮らしにいけばなをと、体験や見学も行っています。

流派名:都未生流 MIYAKOMISHORYU

出品者:大津 智永 Chiei Ootsu

知恩院華頂宮(ちおんいんかちょうのみや)の指南役、藤本月亭光信(ふじきげつていみつのみつ)により天保6年京都にて起る。技術だけではなく優しさ、美しさを感じていただける心を持ってもらいたい。都未生流では、いけばなを通し心を育てる指導をしています。

2025年4月23日(水)～4月26日(土)

流派名:未生流笹岡

MISHORYU-SASAOKA

出品者:笹岡 隆甫

Ryuhō Sasaoka

いけばなの設計図にあたる寸法表を用いた理論的な教授方法による「理論派の華道」。また、かきつばたを流花(りゅうか)とすることから「かきつばたの笹岡」とも呼ばれる。

流派名:峰風遠洲流

HOFUENSHURYU

出品者:平尾 熙峰

Kiho Hirao

小堀遠州公(こぼりえんしゅうこう)の流れを頂き、1923年に創流(そうりゅう)。古典花(こてんか)はもとより、自然花(しぜんか)、現代花(げんだいか)に至るまで「真・善・美」を追求し、継承すべき伝統を重んじ、大切にしつつ、時流にあったいけばなに取り組んでいます。

流派名:日下部流

KUSAKABERYU

出品者:日下部 一如

Ichinyō Kusakabe

型に捉われず、自然の枝ぶりに応じて自由にいけられる真華(しんか)、新庄花(しんしょうか)をつくった。いつでも、どこでも、だれでも、自由に楽しめる「いけばな」をいける。

京瓦「キモノタイル」に覆われた 空間デザインと映像・音楽によるノンバーバル表現

オリジナルの京瓦「キモノタイル」によって
質感を統一したミニマルかつ静謐な空間を通じて、
来場者がじっくりと京都の未来と過去に
向き合えるような体験を創出します。
さらに、そこに加わるノンバーバルな映像と音響は、
空間と一体となりながらその多面的な魅力を物語ります。



映像紹介

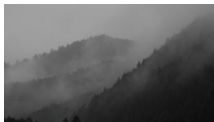


今日庵の窓

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



大輪の菊



雨が降る深山

撮影地：南丹市美山町



春の和菓子

撮影地：京都市下京区
協力者：京菓子司 末富



岩盤から滲み出る清水

撮影地：京都府船井郡京丹波町



商業施設の中の活花作品と 街の雑踏

撮影地：大丸京都店（京都市下京区）
協力者：華道家元池坊



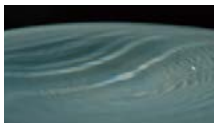
お茶をいただく人

撮影地：無鄰菴（京都市左京区）
協力者：植彌加藤造園株式会社



鋭利なハサミが枝を切る

映像紹介



水盤の波紋



うねる海面

撮影地：京都府舞鶴市



山間を流れる溪流

撮影地：京都府宮津市



ダイナミックな松の枝

撮影地：京都御苑（京都市上京区）



柄杓で釜からお湯をすくう

撮影地：無鄰菴（京都市左京区）

協力者：植彌加藤造園株式会社



江戸時代の立花図集

撮影地：いけばな資料館（京都市中京区）

協力者：華道家元池坊



立花の作品

撮影地：いけばな資料館（京都市中京区）

協力者：華道家元池坊



点前座から見た今日庵茶室

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）

協力者：裏千家 今日庵

映像紹介



赤く燃える炭

協力者：一般社団法人茶道裏千家淡交会
木下 宗佳



樂茶碗のディテール

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



今日庵の壁に落ちる陽光

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



今日庵 兜門からの露地

撮影地：裏千家 今日庵（京都市上京区）
協力者：裏千家 今日庵



樂茶碗

「十五代直入焼貫黒樂茶碗女媧
（1993年制作）」（公益財団法人樂美術館蔵）

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



ススキ野原

撮影地：京都府宮津市



樂茶碗の見込（内側）

撮影地：樂美術館（京都市上京区）
協力者：公益財団法人樂美術館



降り積もる雪

撮影地：京都市中京区

じゅんおんはいけい

巡音拝景

京都府の今の音と、文献などに記述された音をあつめ、
そこに新たな音を配置(Composition=作曲)して制作する。

1996年に環境省(当時環境庁)は「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境(音風景)を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景100選”」を選定した。それから約30年が経ち、改めて京都府の音を取り上げる。温暖化が加速し、四季が失われつつある現代において山や森林など木々は大変重要で貴重なものである。京都府には豊かな自然があり、美しい音が存在している。自然がこれからも失われないことを祈りながらフィールドレコーディングをした。前述の「音風景100選」で取り上げられたものに加え、新録している。

さらに文学の中にも多くの音の記述がある。録音技術が生まれる以前には古来から人々はことばを使って音を集めた。こういった音を集めることもフィールドレコーディングである。

フィールドレコーディングリスト

Part-1 るり溪(南丹市) 船着場(伊根町) 舞鶴港(舞鶴市) 宮津湾(宮津市) 石清水八幡宮(八幡市)

Part-2 京都御所玉砂利(京都市) 清水寺(京都市) 鹿(京都市) 大江山(福知山市) ちりめん街道 天満神社(与謝野町)

Part-3 琴引浜(京丹後市) 琴滝(京丹波町) 宇治川(宇治市) 真福寺水琴窟(亀岡市) 妙心寺(退蔵院) 水琴窟(京都市)

Part-4 綾部大橋由良川(綾部市) 美濃山竹林(八幡市) 興聖寺(宇治市) 古世親水公園(亀岡市) 詩仙堂鹿おどし(京都市)

御香宮神社(京都市) 雷雨(京都市)

記述されたものからのフィールドレコーディングリスト

大原『平家物語』 鐘の音、鹿の音、虫の音

野宮『源氏物語』 虫の音、松風の音、雅楽の楽器の音

宇治『万葉集』 宇治川にして作る歌二首 1699-1700 雁の鳴き声、川の音

法成寺『栄花物語』 卷第十七「おむがく」 雅楽の演奏音

丹後『丹後国風土記』 逸文 嘆く声、歌

福知山『大江山絵詞』 雷、田楽

石清水八幡宮 世阿弥 能『弓八幡』、『放生川』 不思議な音楽、夜神楽の音

法勝寺『弁内侍日記』 後戸猿楽、鈴の音

谷崎潤一郎 潺湲亭「夢の浮橋」 添水(しおどし)の音

琴弾浜 木内石亭『雲根志』 海辺の砂浜の音

『蜻蛉日記』 車の音

『洛陽田楽記』 永長の大田楽

作・編曲:原 摩利彦

ギター:Polar M

フィールドレコーディング協力:村中真澄

リサーチ協力:原 瑠璃彦

音響デザイン:中原楽(KARABINER inc.)

株式会社 大城音響事務所

制作:MH Studio Inc. / TSUYURI

空間デザイン協力	Space design cooperation
Sandwich	Sandwich
京瓦タイル「キモノタイル」製作協力	Kyoto tile "Kimono tile" production cooperation
株式会社京瓦 浅田製瓦工場	ASADA KAWARA FACTORY
テーマ映像制作	Theme video production
株式会社 青空	AOZORA,LTD
テーマ音楽制作	Theme music production
原 摩利彦	Marihiko Hara

大阪・関西万博きょうと推進委員会